

地球温暖化防止の取り組み

CASIO now!

地球市民企業としての活動

カシオの2007年度の温室効果ガスCO₂総排出量は約27万トンです。その割合は国内が43%、海外が57%を占めています。

持続可能な成長と、人類がたゆみなく築いてきた文明社会の継承のために、カシオは地球市民企業として、温室効果ガスの抑制・削減を実践していきます。カシオは、今できることに英知を結集し、直接・間接を問わず温室効果ガスを削減すること、そして環境にやさしい、愛しい地球を守る活動を続けていきます。

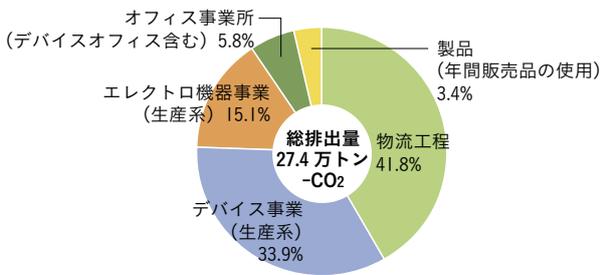
カシオのCO₂排出量

京都議定書における日本のCO₂削減目標は、第1約束期間(2008年～2012年)に1990年の総排出量に対して6%削減しなければなりません。

電機電子4団体は、実質生産高CO₂原単位で、第1約束期間の5年間平均で35%改善という新たな目標を設定しました。

カシオも、国内事業所について、1990年を基準年とした第1約束期間の新たな削減目標を設定し、さらに排出削減に取り組めます。

CO₂換算総排出量(2007年度)



国内

| 順位 | 事業所 | 排出量 (トン-CO ₂) | 構成比 (%) |
|----|---------------------|---------------------------|---------|
| 1 | 物流工程 | 2,184 | 1.9 |
| 2 | デバイス事業(生産系)※ | 93,088 | 79.1 |
| 3 | エレクトロ機器事業(生産系) | 7,763 | 6.6 |
| 4 | オフィス事業所(デバイスオフィス含む) | 9,350 | 7.9 |
| 5 | 製品(年間販売品の使用) | 5,268 | 4.5 |
| | 合計 | 117,653 | 100 |

※SF₆排出量 21,486トン-CO₂含む

海外

| 順位 | 事業所 | 排出量 (トン-CO ₂) | 構成比 (%) |
|----|---------------------|---------------------------|---------|
| 1 | 物流工程※ | 112,557 | 71.8 |
| 2 | デバイス事業(生産系) | 0 | 0.0 |
| 3 | エレクトロ機器事業(生産系) | 33,569 | 21.4 |
| 4 | オフィス事業所(デバイスオフィス含む) | 6,489 | 4.1 |
| 5 | 製品(年間販売品の使用) | 4,190 | 2.7 |
| | 合計 | 156,805 | 100 |

※物流工程の排出量は製品販売物流工程の排出量

省エネ関連法規制動向

これまでカシオは、事業規模が拡大する中で投入エネルギー量の増大は避けられないものとして受容し、CO₂削減活動については原単位目標を掲げてきました。しかしながら、国内では省エネ法^{※1}、温対法^{※2}改正に見られるように、事業者単位の報告、通勤・出張等のCO₂排出量の届出(大規模事業者)などが2009年度から施行される見通しです。

また東京都では「環境条例」の改正によりCO₂排出総量規制(大規模事業者)や省エネ報告(中小規模事業所)が2010年から施行される見通しです。

カシオのCO₂削減活動も、原単位管理から絶対量の掌握へと進化します。

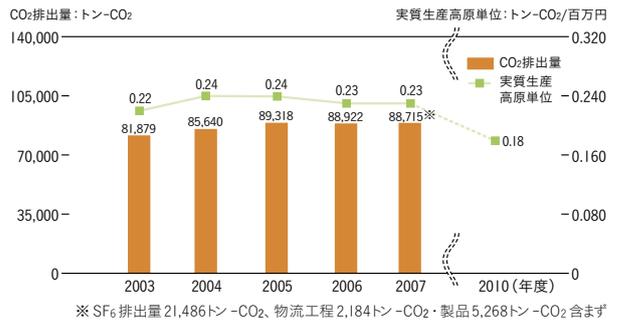
※1 省エネ法=エネルギーの使用の合理化に関する法律

※2 温対法=地球温暖化対策の推進に関する法律

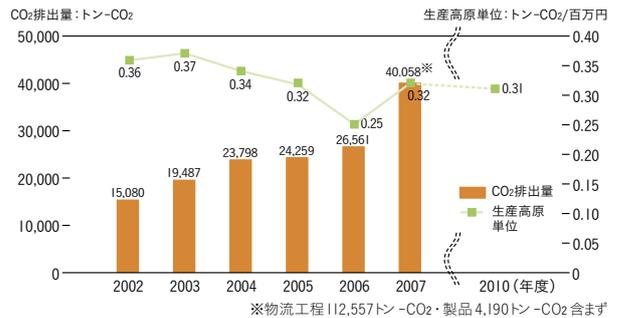
生産拠点、オフィスでの取り組み

カシオの生産系(SF₆含まず)およびオフィス拠点のCO₂排出量は約13万トンです。総排出量27.4万トンの47%を構成します。国内事業所に限ると32.3%の規模にあります。国内生産拠点の削減目標は「実質生産高原単位で1990年度比2008年度から2012年度の平均値で35%削減」に切り替えて推進します。また、総排出量の12%を占める海外生産拠点の削減目標は「生産高原単位で2004年度比で2012年度に30%削減」に切り替えました。さらに、オフィス系拠点は2008年度から総量削減の目標に切り替えて推進していきます。また、中期的には生産拠点の総量削減を段階的に実施する課題テーマの検討を開始します。

CO₂排出量と実質生産高原単位の推移(国内全拠点)



CO₂排出量と生産高原単位の推移(海外全拠点)



>>> 資料・P 13 「CO₂排出量の推移(国内生産系・海外生産系・国内外オフィス系)」

>>> 資料・P 14 「CO₂排出量の推移(エレクトロニクス機器事業、デバイス事業)」

八王子技術センターの手法と運用および成果

2003年11月に完成した八王子技術センターは、優れた環境配慮設計が採用された研究開発棟です。省エネルギーのために、高効率型蓄熱槽・自然喚起照明制御・予測制御が採用され、緻密な運用が行われています。



2007年度の省エネ目標に対しても優れた成果をあげました。

八王子技術センター
風間 清

東京都地球温暖化対策計画制度においてAAAの最高位評価

当計画制度に参画し、2009年度までに(基準年2004年度)CO₂を10.4%削減する計画を提出し活動中ですが、中間報告においてAAAの最高位の評価を受け2008年6月に都知事より表彰されました。

これは温室効果ガスの削減実績ばかりではなく、削減対策の立案と実行の活動を高く評価された結果といえます。今後も最終評価においても評価されるべく、不断の改善活動により、環境への負荷軽減に取り組んでいきます。

物流工程における取り組み

カシオでは、物流工程で発生するCO₂排出量を削減するため、以下の3つの行動計画を掲げ、推進しています。

輸送距離の短縮

国内外で物流拠点から得意先へ直送を推進しています。2008年度より、タイ出し米国東海岸向けの海上輸送を、パナマ運河経由からスエズ運河経由に変更します。

モーダルシフトの推進

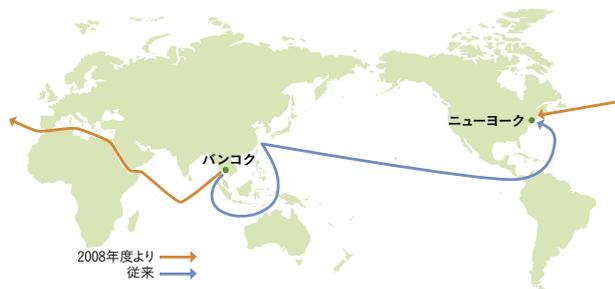
国内では、流通センター、配送センター間の輸送に積極的に鉄道を利用しています。

積載効率改善、輸送物量削減

デジタルカメラ、楽器、プリンタを中心として梱包設計の改善、縮小化に取り組んでいます。

今後はグループ全体のCO₂排出量を把握し、削減するために、これらの計画を継続的に推進していきます。

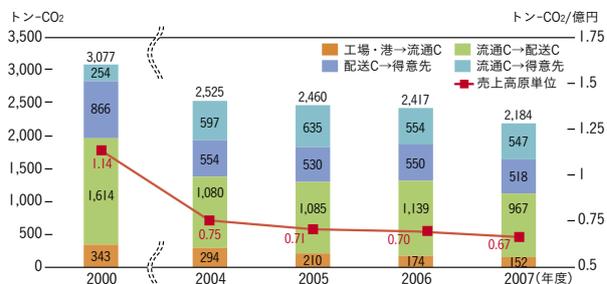
タイ出し北米向け海上輸送



CO₂削減実績(国内)

2007年度のCO₂実績は排出量で2006年度比9.6%削減、売上高原単位で基準年比41.6%削減となりました。

国内物流におけるCO₂排出量および売上高原単位の推移



CO₂削減実績(海外)

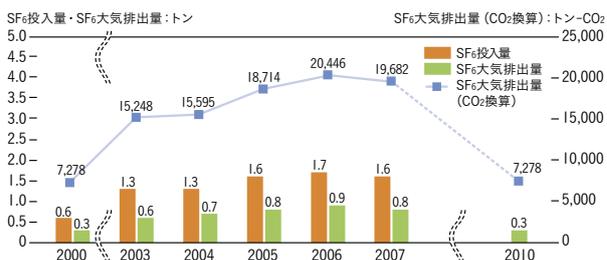
2007年度のCO₂実績は排出量で2006年度比2.4%増加、売上高原単位で基準年比5.5%増加となりました。欧州向けの航空便が増加したことが影響しています。

今後は、2009年度目標達成に向けて、航空便の削減や梱包縮小化、輸送距離の削減を推進していきます。

海外物流におけるCO₂排出量および売上高原単位の推移



SF₆ガスの使用量・排出量とCO₂換算排出量の推移(国内生産拠点)



温室効果ガスの削減

CO₂以外の温室効果ガスの削減目標はJEITA※の自主行動目標「2010年までにCO₂以外の温室効果ガス総排出量を2000年排出量以下にする」に合わせて推進しています。2007年はCO₂換算で約2万トンですが、0.73万トン-CO₂以下を目指し、SF₆の代替ガス開発の成功を契機に温暖化係数ゼロを目指します。

※ JEITA: (社)電子情報技術産業協会